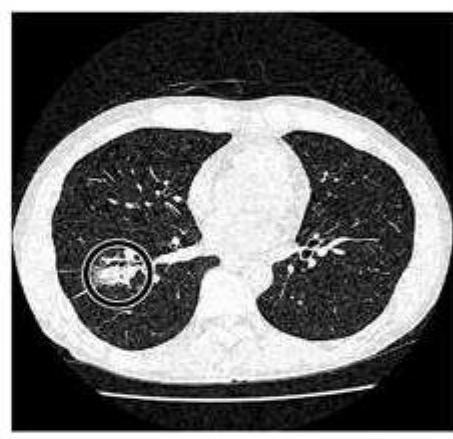




肺がんは、日本のがんによる死亡数のトップ。増殖が早く、転移しやすい悪性度の高いがんです。しかし、無症状のうちには検診で見つけ、早期に治療すれば、約八割の人が治るようになりました。

症状はないことが多いですが、せきやたん、血痰などが挙げられます。地域の肺がん検診や会社

肺がん①



CTに写し出された肺がん(丸印)

の健康診断で見つかることも多いです。検診では、まず胸部のエックス線検査をします。たばこを多く吸う人はリスクが高いため、たんの検査(喀痰細胞診)もして、はがれ落ちたがん細胞がないか

ハイリスク群

喫煙指数 ≥ 400

1日に吸うたばこの平均本数 × 喫煙年数

を調べます。検査は三日間、起床後にたんを取って持参するだけです。

「一日の平均本数」×「喫煙年数」で喫煙指数を計算し、四百以上がハイリスク群。六百以上で五十歳以上の人は地域の検診でたん検査の対象となります。胸部のコンピ

をする場合もあります。がんの疑いがあれば、内視鏡の一種である気管支鏡を口から挿入したり、皮膚の上から針を刺したりして、組織の一部を採取して検査します。

国の指針では、男女とも四十歳以上は年に一度の検診を勧めています。

(森下宗彦呼吸器内科医師・談)



中日病院 名古屋市中区丸の内3の12の3。 中日病院 052(961)2491

喫煙指数400以上、高リスク